

2 私たちの社会

Our Society

私たちは、地域に根ざす公益事業者として、お客さま、地域社会、株主・投資家、取引先、従業員などのステークホルダーの皆さまと、積極的に相互協力しながら、ともに生き、ともに満足できる関係を築いていかなければならないと考えます。

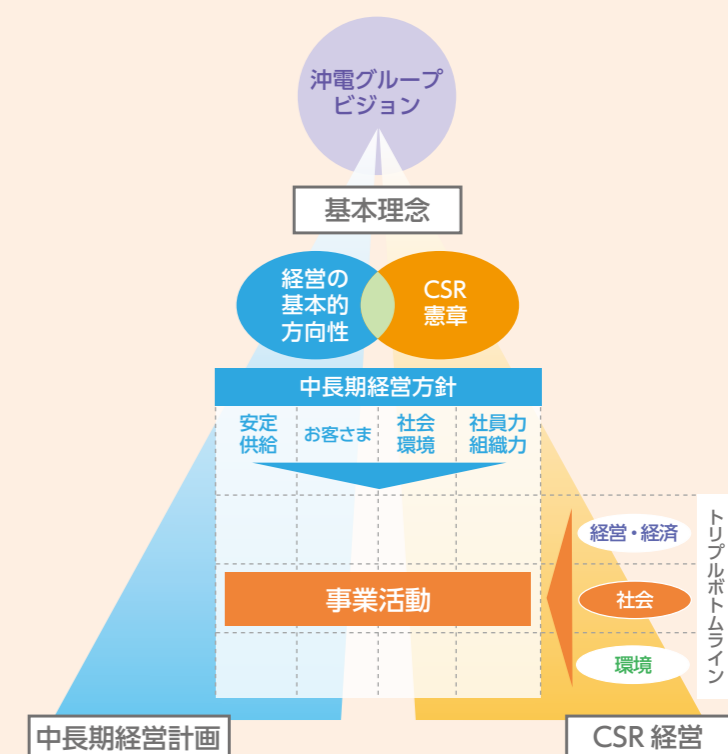
「地域とともに、地域のために」

私たちは、ステークホルダーの皆さまのニーズに対して、双方向のコミュニケーションを通して適切にお応えすることにより、企業価値の向上とともに社会の持続的発展に寄与してまいります。



- ❑ お客さまとの関わり
- ❑ 地域社会との関わり
- ❑ 株主・投資家との関わり
- ❑ 取引先との関わり
- ❑ 従業員との関わり

Corporate Social Responsibility 2012



お客さまとの関わり(安定供給)



▲高台からの吉の浦火力発電所の眺望

1. 発電設備

●電源開発計画

安定供給確保を前提として、需要想定を基に、供給予備力、電力系統規模、系統運用、コスト低減、エネルギーセキュリティ、地球環境問題などを総合的に勘案した電源のベストミックスを推進し、適切な時期に適切な機種・容量を計画しています。

現在は、当社初となる LNG コンバインドサイクルを採用した吉の浦火力発電所を建設中で、1号機が2012年11月、2号機が2013年5月、3、4号機は2022年以降に運転を開始する予定です。また、災害対策用として2016年に燃料多様型ガスタービンの運転開始を予定しています。

●設備保全

日常の巡視点検による不具合の早期発見・早期処置により事故の未然防止を図りつつ安全な運転を継続しています。

また、発電設備の定期検査については、法令に基づいた品質管理システムを構築し、検査の品質に関する要領書(手順書)を定め、検査計画・検査方法・検査記録・是正処置の作成や承認の手続きを明確化しています。

さらに、経年設備については、長寿命化工事を実施することで長期安定運用を可能にし、電力の安定供給の一翼を担っています。

これらの活動を確実に実施することで、発電設備の信頼性を維持し、電力の安定供給に努めています。



▲タービンローターの点検

●不具合情報と対応状況について

発電設備の不具合に対する対応(原因特定、処置方法、再発防止対策、関係箇所への周知など)についてマニュアル化し、発電設備の計画外停止の低減に努めています。

また、同業他社からの不具合情報についてもマニュアルに基づき、速やかに周知し関連する事項については早急に対応しています。

2. 送電・変電設備

●設備の構築

発電した電気をお客さまのもとへ届けるためには送電線、変電所などの流通設備を経由する必要があります。そのため、地域の需要動向および供給信頼度を考慮しつつ、将来的にも電力の安定供給が確保できるよう、発電設備と流通設備の一体的、効率的な増強を推進しています。

●電力システムの運用・保全

電気は貯蔵しておくことができないという性質を持っているため、刻々と変化する電力需要に対応する必要があります。当社では、お客さまの電気使用量を想定して、各発電所の出力調整を行い、安定した良質な電気を24時間コントロールしお届けしています。

また、送電線や変電所が常に正常に機能するために、定期的に巡視・点検を行っています。

●自然災害などへの対策

雷に対する供給信頼性とシステムの安定運用を確保するための避雷装置設置などの設備工事を着実に推進するとともに、自然災害などにより一部の送電線路が停止しても停電とならないよう線路の2回線化や2ルート化を図っています。さらに、停電が発生した場合の停電時間短縮のため、送電線復旧の自動化を図り、電力の安定供給に努めて



▲高圧発電機車での電力供給訓練



▲技術訓練施設内鉄塔を利用した防災訓練の様子

います。

また、実態に即した防災訓練を実施し、社員ならびに関係・協力会社も含め、災害時の被災設備早期復旧に向け取り組んでいます。

●電力技術の維持・向上

現場業務の委託化、労務構成の急速な若年化などによる現場実践機会の減少などにより、現場技術の習得が年々困難な状況になっています。課題解決のために、若年社員や新入・転入社員への研修・OJTの充実を図っているほか、技術訓練施設や給電訓練用シミュレータを活用した訓練を行い、保守・運用の現場技術の維持・継承を図っています。

3. 配電設備

●設備の構築・運用・保全

面的に広がり、数が膨大である配電設備の供給信頼度は、当社の地理的性質上、台風の影響に大きく左右されることから、過去の被害状況などを考慮し、自然災害に強い設備構築に取り組んでいます。

また、配電設備は、定期的実施している線路巡視や点検により、異常個所の早期発見に努め、異常個所を発見した場合は速やかに改修工事を行っており、事故の未然防止に努めています。

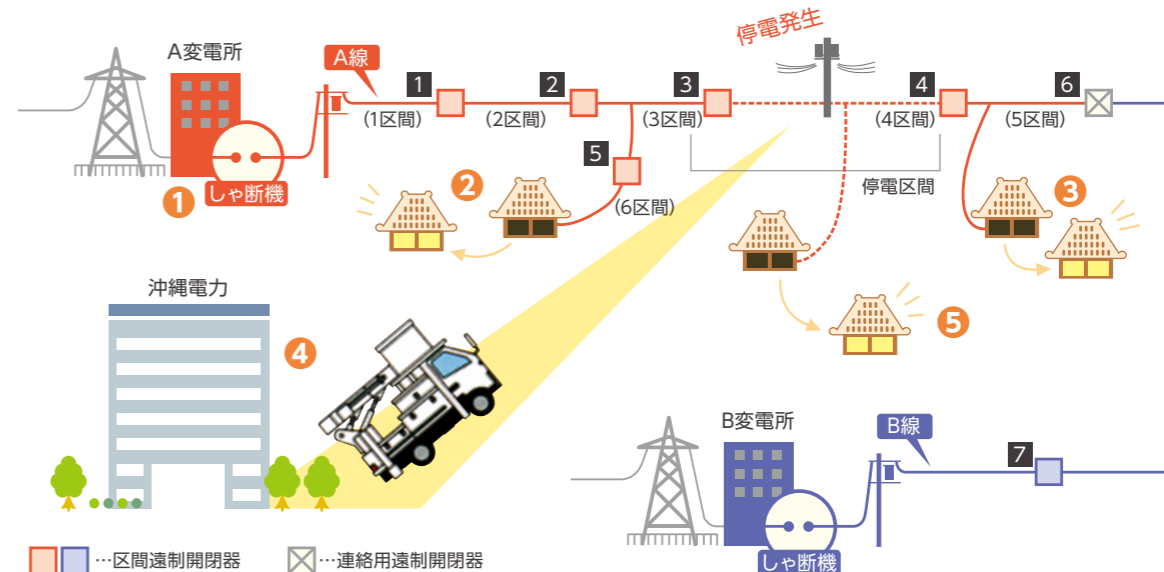
事故により停電となった場合でも、配電自動化システム*により事故停電の範囲を最小限に留めるとともに、早期の復旧が可能となっています。

また、配電自動化システムで電圧などの品質の維持や、より効果的な設備の構築計画業務に役立て、お客さまへの安定的な電力供給に努めています。

※支店に設置したコンピューターと電柱に取り付けた遠隔装置とを通信ケーブルで結び、電柱上の開閉器の遠方操作や配電線の電圧、電流などの情報収集をすることを可能としたシステムです。
この配電自動化システムを導入したことで、開閉器から得られる各種計測情報により、事故停電において健全区間への自動負荷融通が可能となり、健全区間の早期復電、および事故点の早期発見が可能となっています。

配電線事故停電処理の概要

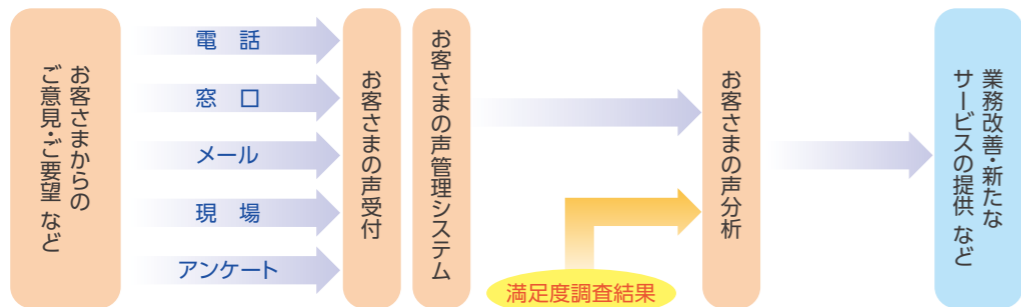
配電線事故が発生すると、配電自動化システムにより、事故区間を検出して、事故区間以外は自動的に電気を送ります。



- 1 A変電所のしゃ断機が切れてA線が全部停電します。
- 2 A変電所のしゃ断機が「入」となり、いったん1→2→3および5の順序で区間遠隔開閉器が投入されます。しかし事故の原因が(4区間)にあるため、3を入れた瞬間事故を検出し、再び3のみ「切」となり、変電所～4まで送電がなされます。(現場遠隔装置の自動動作)
- 3 システムは(4区間)に事故の原因があると判断し、自動的にA線とB線連絡用遠隔開閉器6を「入」にして、B線から区間遠隔開閉器4まで送電が行われます。(システムの自動操作)
- 4 沖縄電力から事故区間へ復旧班が出向き、事故原因を探します。事故原因が発見できると、お客さまへ電気を送ることを最優先に応急工事などで早期復旧を行います。
- 5 事故の復旧作業が完了した後、区間遠隔開閉器3を「入」にし、全てに送電がなされます。

お客さまとの関わり(お客さまの満足度向上)

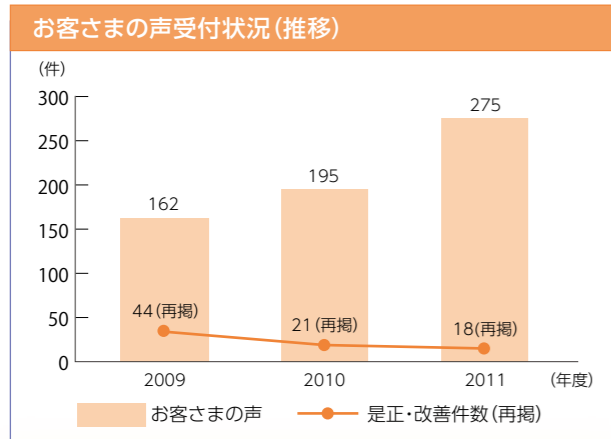
当社は、より良いお客さまサービスの実現に向け、お客さまからいただいたご意見・ご要望をもとに、お客さまサービスの向上ならびに業務の改善に努めています。



1. 「お客さまの声」の活用

お客さまからのご意見・ご要望に対して、迅速・的確に対応するため、全社員で情報共有できる「お客さまの声管理システム」を構築し、サービスの向上や業務の改善につなげています。

また、お寄せいただいた「お客さまの声」は、定期的開催される役員会をはじめとした各種会議体を通して、各部門や各事業所へ随時報告され、水平展開を図り、業務の均一化を図っています。



【「お客さまの声」を活かした改善事例】

- **コールセンターのフリーダイヤル導入**
お客さまからのご要望が多かったフリーダイヤルを2011年11月より導入し、引越しのお申込みや料金のお問い合わせ、停電・故障受付などでコールセンターへお電話されるお客さまへのサービス向上を図りました。
- **土曜日の引越し受付を開始**
従来、引越しの受付（電気の送電開始または廃止のお申込み）は、平日のみ受付しておりましたが、土曜日も引越しの受付をしてほしいとの声から2012年4月より土曜日の受付を開始しました。
- **台風時の停電情報を強化**
これまで台風時の停電の際には、当社ホームページ、モバイルサイトにて各支店単位の停電件数をお知らせしていましたが、同お知らせを市町村単位に変更し、加えて復旧の目途を掲載することで、お客さまへの情報提供を充実しました。

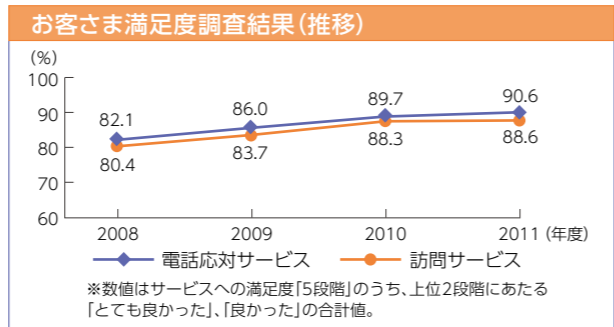
2. お客さま満足度調査

引越し手続きや停電・故障受付をさせていただいたお客さまを対象に、毎年、電話係員や訪問係員の対応内容や接遇マネーなどに関するアンケート調査（年間約6千通、郵送）を実施し、お客さまサービスの一層の向上および業務の改善に取り組んでいます。

ご回答いただいた内容によっては、各事業所担当がお客さま宅を訪問し、詳細について確認の上、お客さま対応を行っています。



▲コールセンターでの対応の様子

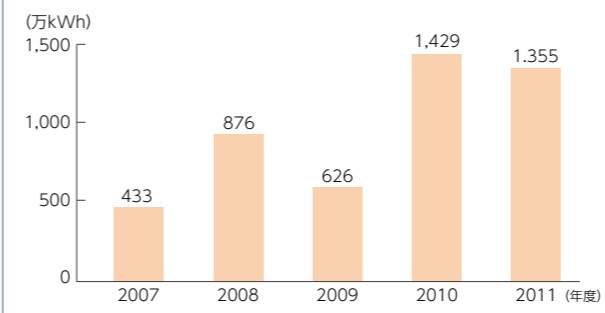


3. 法人お客さまへのきめ細かなサービスのご提供

お客さまへの訪問活動を通して、省エネ・省CO₂意識の高まりや燃料価格の急激な変化によるエネルギー費用に対する不安感など、外部環境により変化するお客さまニーズ・動向の的確な把握・分析に努めています。

これらの情報を基に、お客さまに合った最適な契約種別や電化機器のご提案、省エネ情報のご提供など、お客さまの立場に立った的確なコンサルティングを行うとともに、フォローアップ活動を充実させることで、お客さまの満足度向上に努めています。

業務用電化機器の販売電力量(kWh)推移



導入事例

保育園の厨房も給湯もオール電化を採用

ペリー保育園 園長 賀数 様



調理時間の短縮、環境や安全面への配慮などオール電化厨房はいいことづくめ。光熱費を一元化することがこれほど節約につながると思いませんでした。電磁調理器は熱伝導率が良いので湯沸かしが早く、調理時間も大幅に短縮。周囲の空気が熱くならないので厨房の環境が快適になりました。オール電化厨房には本当に満足していますね。

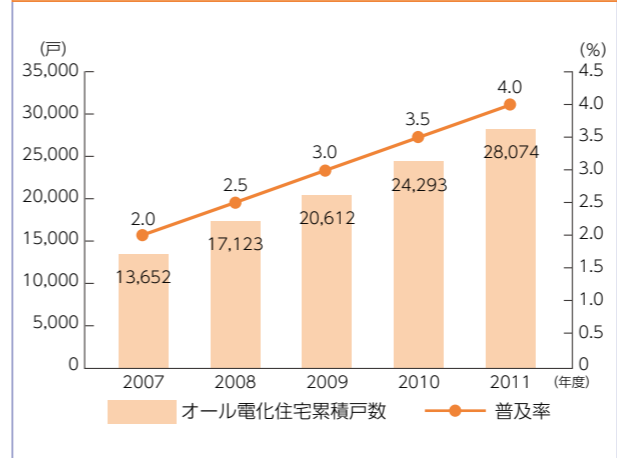
また、シャワーや乳児の沐浴用バスタブを使う機会が多い保育園では、お湯がたっぷり使えるタンク容量550ℓの電気温水器を採用したので、安心して利用しています。

4. 豊かで快適な暮らしのご提案

火を使わず鍋そのものを発熱させる「IHクッキングヒーター」と、空気の熱を利用してお湯を沸かす給湯機「エコキュート」を採用したオール電化住宅が年々増えています。

ここ数年、全国的にオール電化住宅の認知度、信頼が高まったことなどから、2011年度には導入件数が28,074件となりました。当社では、オール電化専用Webサイト「www.kaeru.tv」やパンフレットを利用した情報提供、お客さまへのコンサルティング活動を通してオール電化住宅の提案活動を展開しています。

オール電化住宅戸数・普及率の推移



導入事例

集合住宅にオール電化を採用 集合住宅 嘉手納町 島袋 様



実家や周囲から「IHクッキングヒーターは便利で掃除がラク」と聞いて導入を決めました。火を使わずに安全なので、お手伝い好きの娘を安心してキッチンに入られます。電気温水器の良さもすでに体験済みで、いいものは入居者の皆さんにもと思い、エコキュートも標準装備にしました。オール電化の集合住宅は長持ちでメンテナンスもラクだと思いますね。

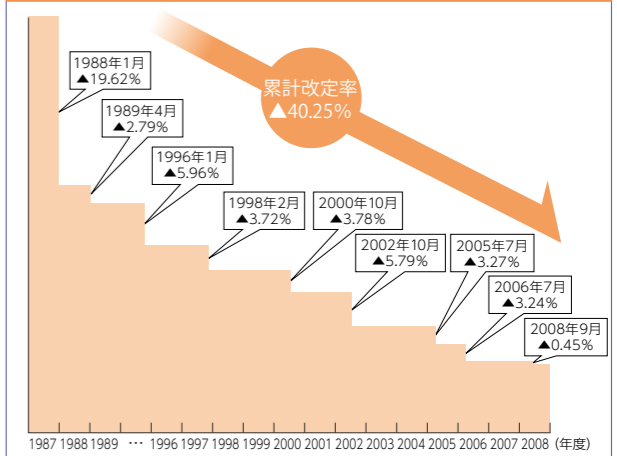
また、オール電化体験車やオール電化体験施設を活用し、オール電化を気軽に体験してもらいながら、快適生活のご提案・情報発信を行っています。今後も、お客さまにオール電化を身近に感じていただく活動を展開することで、沖縄独自の伝統・文化を活かしながら「暮らしを豊かにする」ためにオール電化でできることを、多くのお客さまに伝えていきます。

5. 電気料金改定の推移

当社は、効率化努力の成果を最大限に反映し、1988年以降、12回(暫定3回を含む)にわたる見直しを行ってまいりました。

今後もより一層効率化への取り組みを推進し、「財務体質の強化」、「本土並み電気料金水準の確保」へ向け更なるコスト低減に努めてまいります。

電気料金改定率の推移



地域社会との関わり

コーポレートスローガンである「地域とともに、地域のために」を経営の中心に据え、さまざまな社会貢献活動を積極的に展開します。

1. 地域振興活動

地域経済・産業の発展に寄与することを目的に、県内外の経済界・産業界の諸団体と連携し、産業振興に関する提言・支援を行うとともに、産・官・学・民の調査機関などとの共同研究の実施や、調査研究機能の充実強化への協力、スタッフ派遣、各種団体への寄付・協賛など、地域経済・産業振興、技術開発に取り組んでいます。

また、社内ベンチャー制度で設立された沖縄発の高級豚肉販売会社「がんにゅう」などを通じて、地域特産品の振興・創出にも取り組んでいます。



▲県産品PRイベント 沖縄の産業まつりへの協賛・出展

●自主企画テレビ番組(ウチナー紀聞)放送

沖縄の文化・産業・芸能・スポーツなど地域に根ざした題材をとりあげるテレビ番組「ウチナー紀聞」の制作企画・番組提供を通じて、地域振興を図るとともに、移り変わる沖縄の風物を時の記録として伝えていきます。



▲毎週日曜日11:00~11:30 琉球放送(RBC)にて放送

視聴者の声

- ・毎週興味深く拝見しています。生まれも育ちも沖縄ですが、沖縄のことをあまり知らないのので、毎回勉強させていただいています。これからも、ためになる「ウチナー紀聞」を期待しています。
- ・いつも楽しく拝見しています。各地域の取り組みや物産品などを知ることができ、足を運ぶきっかけにもなっています。
- ・地元の文化や企業を改めて再確認でき楽しい時間を過ごしています。

2. 社会福祉活動

当社では、沖縄県内の社会福祉団体への寄付や各種福祉行事への参加、支援を通じて地域社会福祉の振興に取り組んでいます。また、沖電グループ各社役員で構成する「おきでんグループボランティア互助会」や当社のシンボルスポーツである沖縄電力硬式野球部を通じた活動も積極的に行っています。



▲うるま市具志川漁港にて行われた清掃活動

おきでんグループボランティア互助会 (2011年度実績)

- 団体清掃活動
 - ・うるま市具志川漁港 (会員およびその家族約130名が参加)
 - ・児童養護施設 美さと児童園 (会員およびその家族約50名が参加)
- 寄付活動
 - ・沖縄県社会福祉協議会
 - ・浦添市社会福祉協議会
 - ・認定NPO法人 MESHサポート
 - ・児童養護施設 美さと児童園
- 収集ボランティア活動
 - ・那覇市社会福祉協議会 (使用済切手約8,000枚および書き損じハガキ150枚、切手96枚を預託)

福祉団体の声 社会福祉法人 美さと児童園

この度は当園児童の福祉向上のためご寄付を賜りましたことに対し、衷心よりお礼を申し上げます。当園入所児童は、みなさまの善意により支えられながら自らの逆境にくじけることなく逞しく健やかに成長しています。私ども職員一同は、園児たちが心身健やかに成長する環境づくりに努力していく所存でございます。



●ファミリーハウス「がじゅまるの家」

2008年6月に、おきでんグループ百添会の設立10周年記念事業として、入院患者の付き添い家族用滞在施設「ファミリーハウスがじゅまるの家」を沖縄県へ寄贈しました。



▲ファミリーハウス「がじゅまるの家」

当該施設は、離島や遠隔地に住む子どもたちが、高度な医療技術を有する沖縄県立南部医療センター・こども医療センターで治療を受ける際に、付き添いのご家族の方々が低料金で快適にご利用いただける滞在施設です。

2011年11月には、当社社員の家族を含む37名で施設構内の清掃活動をお手伝いさせていただきました。また、清掃の合間などに従業員や宿泊者から当該施設に設置されているIHや電気温水器の利便の良さを実感したと、「オール電化」に対する好評をいただきました。

今後もボランティア活動などを通じてファミリーハウスの運営支援に取り組んでまいります。



▲ファミリーハウス「がじゅまるの家(施設の清掃の様子)」

3. 地域社会との交流・対話

県内の各市町村で催される祭典や文化活動、スポーツ行事への参加や協賛を通じて、地域社会との交流を図るとともに、地域社会の活性化に寄与します。

●おきでん対話旬間

日頃お世話になっている地域の皆さまへ感謝の気持ちをお伝えすることを目的として、1978年から『おきでん対話旬間』を毎年開催しています。

2011年11月1日~10日には、「[ありがとう]いま感謝の気持ちを届けたい」をテーマに、県内各地で「ふれあい活動」「地域奉仕活動」「メッセージ活動」「スポーツ交流活動」を行い、お客さまとのコミュニケーションを図りました。

おきでん対話旬間の取り組み内容(2011年度)

	活動内容	イベント数
ふれあい活動	お客さま訪問 婦人連合会懇談会など	22イベント
地域奉仕活動	清掃活動 電気設備無料点検など	38イベント
メッセージ活動	発電設備見学会 電気なんでも相談など	10イベント
スポーツ交流活動	グラウンドゴルフ大会 バレーボール教室など	14イベント



▲保育園や一人暮らしのお年寄り宅などの電気設備の無料点検、修理



▲グラウンドゴルフ大会の開催

4. 地域の芸術・文化活動の振興

琉球舞踊やエイサーをはじめとする県内の各種芸術・文化活動への支援や当社主催イベント「おきでんシュガーホール新人演奏会オーディション」、「おきでんひかりの風景デジタル写真コンテスト」の開催を通じて、沖縄県内の芸術・文化活動の振興に努めています。

●おきでんシュガーホール新人演奏会オーディション

1994年より次代を担う若手音楽家の発掘・育成や地域の音楽文化の振興などを目的に南城市、沖縄タイムス社と共同で開催し、2012年度で18回を迎えました。オーディションには、毎年国内外より多数の応募があり、実力本位の国際的なオーディションとなっています。2000年には、優れた芸術文化支援を行った企業を支援する「メセナ大賞2000」の新人賞を受賞しました。

歴代の受賞者は、県内小学校向けに「学校めぐり出前授業」を行っており、参加した子どもたちには、さまざまな楽器や歌に触れ、豊かな感性を刺激する貴重な機会として大変喜ばれています。



▲おきでんシュガーホール新人演奏会

受賞者の声

藤井 千尋さん

第18回グランプリ受賞者：管打楽器部門ホルン

今回、この沖縄の地で素晴らしい賞をいただけたことを嬉しく思うと同時に、主催してくださった方々、指導してくださった先生、ともに練習してきたピアニストの美里真帆さんに、心から感謝しています。

私はホルンを始めて10年目になります。この新人演奏会を区切りにこれからも更に充実した音楽活動ができるよう、精進して参ります。

●おきでん「ひかりの風景」デジタル写真コンテスト

「電気のひかり」が持つ“暖かさ”、“華やかさ”や“安心感”に触れていただけるよう、どなたでもお気軽にご参加いただけるデジタル写真コンテストを開催しています。

▼「ひかりの風景」デジタル写真コンテスト入賞作品



大賞

受賞者の声

當山 規子さん

「スーパーコンピューター京？」

次女が机に向かい、足し算や引き算をする様子を撮影しました。指を使って一生懸命に計算をしている姿は、あと半年もすれば見られなくなる。今しか見られない風景を撮影しました。今後もこのイベントが続いてほしいと思います。



優秀賞

「朝方の海中道路」
与那覇 拓さん



優秀賞

「宇宙をみまもる」
中西 康治さん



優秀賞

「泊漁港の競り風景」
平良 秋子さん

5. 学術・教育・スポーツ

沖縄の未来を担う子どもたちに、学ぶことの楽しさ、創造する心を育んでもらえるよう学術・教育関連行事への支援を行っています。また、電気の仕組みが楽しく学べる電気科学館や発電所見学、親子工作教室などさまざまな教育の機会を提供しています。

●沖縄青少年科学作品展

青少年の科学に対する興味・関心を喚起し、沖縄県の科学教育の振興と人材育成に寄与することを目的に1979年（昭和54年）から当社が主催し、2011年度で34回を迎えました。

「僕のひらめきは無限大！」をテーマに両日合わせて約1万1000人余りの方々にご来場いただき、県知事賞をはじめとする134作品の表彰が行われました。県内小・中・高等学校・高等専門学校およびアメリカンスクールから応募のあった多数の研究作品の展示のほか、チャレンジ実験コーナーや科学実験ステージショーなど子どもから大人まで楽しく科学に触れていただけるイベントとなっています。



▲沖縄青少年科学作品展の様子

参加者の声

- ・科学の不思議に毎回驚かされています。子ども以上に私が楽しんでいます。
- ・毎年来ています。子ども達の作品、研究は素晴らしい。未来の科学者がきっと生まれます。がんばってください。ありがとうございました。
- ・直接高校生の方が、小さい子ども達へ教えてくれるところも素晴らしいと思います。小さい子ども達も、どんどん科学に触れて、見て、考える事、作る事の楽しさをわかってくるので、ぜひこれからも、どんどんやってください。沖縄から素晴らしい科学者、発明者があらわれるのを楽しみにしています。

●親子工作教室

具志川火力発電所では、毎年定期的に「親子工作教室」を開催しています。また、工作教室以外にも、電気科学館の見学や施設見学会、ソーラーカート乗車会なども行っており、毎年多くの親子に参加していただいています。今後も親子で楽しめるイベントを企画し地域の皆さまや、子供たちとの交流を深めていきます。

平成23年度「親子工作教室」参加者実績：2,682名



▲親子工作教室の様子

●スポーツ振興

「おきでん旗争奪沖縄県学童軟式野球大会」などの次世代向けスポーツイベントへの協賛をはじめ、「那覇マラソン」など幅広い世代が参加できるスポーツイベントへの協賛・ボランティア参加を通じて、県内スポーツの振興発展を支援しています。



▲第17回おきでん旗争奪 沖縄県学童軟式野球大会

また、沖縄電力硬式野球部では、現役選手による小学生を対象とした少年野球の開催や講演活動などを通じて、青少年の健全育成および県内球界の技術力向上、振興発展に取り組んでいます。

6. 国際貢献活動

2011年度は、一般社団法人海外電力調査会を通して国際協力機構 沖縄国際センター（JICA沖縄）より受託しているJICA集団研修「配電網整備」コースならびに海外電力調査会より受託しているアセアン研修を実施しました。

《《 JICA集団研修「配電網整備」コース 《》》

●目的

開発途上国の電力会社などで配電業務の指導的役割を果たしている技術者に対して、日本の配電網整備技術を提供し、研修員が自国の配電設備を効率的に整備するための一助とすること。

●受け入れ実績(2011年度)

13ヶ国（バングラデシュ、ブータン、イラク、マラウイ、ミャンマー、ネパール、ナイジェリア、フィリピン、ルワンダ、シエラレオネ、スリランカ、タンザニア、ザンビア）より、16名の研修員を受け入れ

●期間

9月28日から10月28日（約5週間）

●研修内容

送配電設備の計画・保守・運用に関する研修や離島における電力供給、新エネルギー研究の概要など。

研修員の出身国では、地方電化の推進への対応、電力損失の低減、配電網を効率的に整備するためのノウハウなどを必要としており、本研修を通して、当社の送配電技術が研修員の国々における効率的な設備の構築・運用に貢献しています。

研修員の声

- ・系統管理が非常にうまく行われていると思った。データを効率よく収集し、系統管理に有効に活用していることは素晴らしい。
- ・無停電工法による変圧器交換の作業を見学し、お客さまへ供給を止めることなく、さらに安全を優先した電気工事が出来るのが素晴らしいと感じた。



▲JICA集団研修「配電網整備」コース

《《 アセアン研修 《》》

一般社団法人海外電力調査会がアセアン諸国と締結している人材育成に係る協定に基づき実施しているもので、2011年11月には、約10日間の日程で、「人財育成」をテーマとしてインドネシア、フィリピン、ベトナムの3カ国の電力会社の人材開発部門に従事する8名の研修員を受け入れました。

また、2012年2月には、「無効電力補償と制御」をテーマとして、九州電力から1名、当社から2名の送電部門の専門家をミャンマーへ派遣し、同国の電力省の約50名の技術者を対象に講義を実施しました。講師となった社員からは、

「海外の技術者との交流や異文化に触れることが出来た」「研修員が求めていることを考えながらの講義は、自己のスキルアップにつながることを実感した。」との感想があり、社員にとっても大変貴重な経験となりました。

当社では今後も積極的に国際貢献活動を実施していきたいと考えています。



▲セミナーの様子(講師:島、ミャンマー民族衣装ロンジー着用)

グループ各社の取り組み

沖電グループ各社においても、さまざまな社会貢献活動やイベントを実施するとともに、地域のイベントに積極的に参加しています。

■(株)沖電工



スポーツを通じて子どもたちの健全な心身の育成と技術力の向上を目的に「沖電工杯沖縄県少年剣道錬成大会」「沖電工杯沖縄県サッカー祭り」に特別協賛しています。

■沖縄プラント工業(株)



スポーツ競技力の向上と、青少年の健全育成並びに健康・体力の保持増進に資することを目的とし、2010年から沖縄県小学生ハンドボール大会へ協賛として参加し、『おきぶら杯沖縄県小学生ハンドボール大会』を開催しています。

■沖電開発(株)



浦添市社会福祉協議会、同市障がい児・者関係団体連絡協議会などのイベントにて、サンゴ水槽の設置、出前タッチプールなど多数行っています。

■沖電企業(株)



東日本大震災で東北地方を中心に多くの方々被災し不安な日々を送るなか、いち早く一時避難先として被災者を受け入れた那覇市に、避難家族の皆さんへ支給して下さるよう家庭用常備薬などの支援品を贈呈しました。

■沖縄電機工業(株)



毎月1回、社屋前洲崎運河沿いの清掃除草活動を行っています。会社のある中城湾港新港地区の歩道はウォーキングコースとして利用する方も多く、地区内で働いている方や周辺住民の皆さまに喜ばれています。

■沖縄新エネ開発(株)



西原町が主催する町出身海外移住者子弟研修が2011年7月～12月に行われ、その研修の一環として、当社は2011年11月7日に研修生(アルゼンチン出身)を受け入れました。

株主・投資家との関わり

1. 株主総会

当社は、経営に関わる重要な事項について株主の皆さまに決議いただくため、毎年6月に株主総会を開催しています。総会での議決権の行使は、基準日(3月末時点)において株主名簿に記載されている株主の方々を対象となります。当日ご出席いただけない株主の方々については、郵送、またはインターネットによる議決権行使が可能となっています。

株主総会においては、事業報告および計算書類をビジュアル化し、スクリーンに表示することにより、株主の皆さまにわかりやすい説明を心がけています。



2. IR活動

【目的】

当社では、「株主・投資家・アナリストの皆さまの当社に対する理解を深め、適正な企業評価を得る」、「投資判断に必要な情報を適時、公平、継続的に提供し、信頼関係を構築する」、「株主・投資家・アナリストの皆さまとの双方向のコミュニケーションを通じて、市場の評価や意見を経営にフィードバックする機会を得ることで、経営の質的向上に資する」を基本方針に掲げてIR活動に取り組んでいます。

【活動状況】

機関投資家やアナリストの皆さまを対象とした決算説明会を開催しているほか、より多くの声を事業活動に反映させるために、経営層が国内外の株主・機関投資家・アナリストの皆さまを直接訪問し、双方向のコミュニケーション活動を展開しています。また、ホームページ上においては、説明会資料、経営計画、財務情報などを掲載し、さまざまな情報発信に努めています。

【2011年度実績】

- ・ 決算説明会：中間期、期末の年2回の開催、各会約60名が参加
- ・ 訪問活動：米国・欧州各1回、国内4回実施、計46社を訪問

TOPICS 機関投資家向け決算説明会を開催

IR活動の一環として2012年5月16日(水)、東京都大手町において、証券会社・機関投資家などのアナリストおよびファンドマネージャーを対象とした「2012年3月期決算説明会」を開催しました。本説明会は、2002年3月に東京証券取引所市場第一部へ上場して以来、中間期と期末の年2回開催しています。

最近の電力業界を取り巻く環境から例年より出席者が増え、約60名が出席した本説明会では経営および決算の概要について説明を行いました。その後の質疑応答では、「今後の設備投資額および償却費について」、「吉の浦火力発電所運開後の料金政策について」、「適正利益水準の長期的な方向感について」、「株主還元の考え方について」などに関する質問があり、当社に対する関心の高さをうかがい知ることができ

ました。

なお、説明会資料は、当社ホームページ「株主・投資家の皆さまへ」の「IR資料室」で公開していますので、是非ご覧ください。

<http://www.okiden.co.jp/ir/library/index.html>



取引先との関わり

1. 資機材調達

当社では、お客さまに良質な電気を安定的に供給するための発電所の建設や、電力流通設備の拡充、改良工事などにあたり、製品の品質、安全性など良質で経済的な資機材調達を行うよう心がけるとともに、良好な取引関係を構築していきます。

資機材の調達計画については、取引先との良好な関係の構築、資機材の安定調達のため、年度初めにホームページおよび資料部窓口にて公表しています。

詳しい当社資機材調達情報は下記Webサイトよりご確認ください。

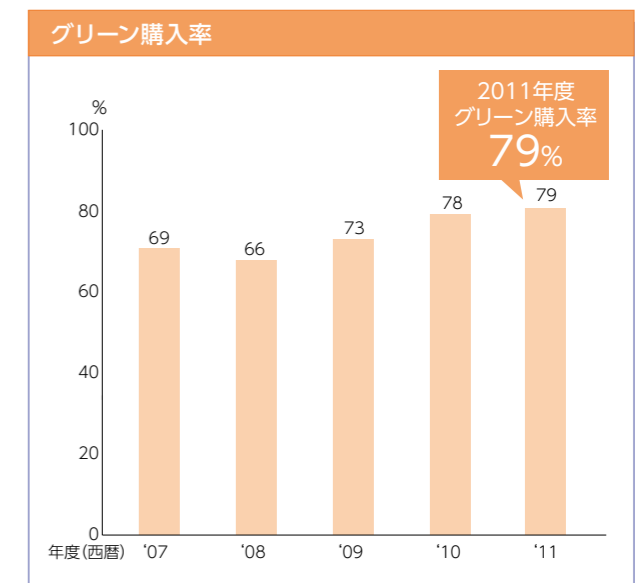
<http://www.okiden.co.jp/business/procurement/index.htm>

● 調達の基本方針

- 1. オープンな調達**
良質で経済的な製品を調達するために、国内外の企業に対し幅広く門戸を開いています。
- 2. 公平・公正・透明性の確保**
取引先の選定にあたっては、製品の品質や安全性などを総合的に勘案し、公正に選定を行い透明性のある調達に努めるべきであると考えます。
- 3. 法令・社会規範の遵守**
購買取引にあたって、当社と取引先の双方がすべての関連法令ならびにその精神、社会規範を遵守すべきであると考えます。
- 4. 相互信頼・互恵関係の確立**
当社と取引先との信頼関係を確立し、相互協力による互いの価値実現を図ることが重要であると考えます。
- 5. 地域社会への貢献**
当社と取引先が、購買取引を通して、ともに地域社会に貢献する良きパートナーとなるべきであると考えます。
- 6. 安全・品質の確保**
安全を最優先し、関係法令を遵守するとともに、労働災害の防止、公衆安全・衛生の確保に努めつつ、購入する資機材・サービスの品質を確保することが必要と考えます。
- 7. 地球環境への配慮**
環境負荷の少ない資機材の優先購入(グリーン購入)を推進し、取引先と協力して資源循環型社会の形成に努めるべきであると考えます。

2. グリーン購入 **G**

沖電グループで使用する事務用品、OA機器などについて、「グリーン購入要領」に基づき、環境に配慮した製品の購入を積極的に推進しています。



● グリーン購入の対象

主に事務用品、OA機器、什器、備品など日常業務で多く活用するものを対象としています。具体的には下記の項目があげられます。

- (1) 紙類
- (2) 文具類
- (3) オフィス家具
- (4) OA機器
- (5) 家電製品
- (6) 照明器具

従業員との関わり

1. 教育・研修制度

当社は、持続的な成長・発展のためには社員力の向上が不可欠であるという観点から「人材育成計画」に基づいて教育・研修制度を実施しています。

社内における職位別に開催する階層別研修、それぞれの職種のスキルアップを図る部門研修、語学講座や海外留学など国際的な感覚を身につけるための特別研修、自己啓発への支援など、さまざまな研修メニューや制度により、新入社員から管理職までがキャリアアップを図り、専門性の確立やスキル向上に取り組んでいます。

1. 階層別研修・新入社員研修	導入研修(ビジネスマナー研修・社会人基礎教育、他)/業務体験研修
・一般社員研修	2年目社員研修 新任副主任研修/新任主任研修
・中堅社員研修	キャリア開発研修30
・管理職研修	新任管理職研修/新任経営管理職研修/部下指導育成研修/リスクマネジメント研修/計数管理研修/OJTスキル習得研修
2. 部門研修	・自部門開発研修
・派遣研修	社外研修/国内長期派遣研修/海外短期派遣研修/海外長期派遣研修
3. 特別研修	・派遣研修 県内派遣研修/社外セミナー/海外派遣研修
・課題別研修	環境変化対応力強化研修/報告説明力向上研修/コミュニケーション能力開発研修/インストラクター実践研修
4. 自己啓発	・語学講座・基地内大学 ・通信教育・TOEIC受験

2. 育児休業制度

当社の育児休業制度では、対象となる子が満2歳に達するまでの間、最長1年6ヵ月の期間で育児休業が取得できます。

2011年度実績 のべ45名

3. 育児への支援

子育てに携わる社員が働きやすい環境を作るため、以下のような取り組みを行っています。

- (1) 育児時間**
生後1年未満の乳児を育てる女性社員は、休憩時間のほかに1日2回それぞれ30分の育児時間を取得することができます。
2011年度実績 のべ2名
- (2) 育児短時間制度**
社員が養育する子どもが、小学校1年生の年度末に達するまでの間について、1日の勤務時間を最大1時間40分に限り短縮することができます。
2011年度実績 のべ33名
- (3) 子の看護休暇制度**
社員が養育する小学校就学前の子どもが疾病・負傷した場合、子の看護休暇を取得することができます。取得できる日数は対象となる子の数に応じて変わり、1人の場合は1年度につき5日、2人以上の場合は1年度につき10日となります。
2011年度実績 のべ154名
- (4) 次世代育成計画の策定・実施**
社員の仕事と子育ての両立支援と、健康で豊かな生活のための時間確保支援など、社員が働きやすい職場環境をつくるために、次世代育成対策支援促進法に基づき、次世代育成計画を策定・実施しています。

4. 介護休業制度

社員の家族に介護が必要になった場合、要介護者1名につき最長1年間の介護休業が取得できます。

5. 介護への支援

家族の介護に携わる社員が働きやすい環境を作るため、介護短時間制度を設けています。

- (1) 介護短時間制度**
介護を要する家族がいる社員は、1年以内の期間で1日の勤務時間を2時間までに限り、勤務時間を短縮することができます。
- (2) 介護休暇制度**
対象者（社員の配偶者、父母、子、祖父母、兄弟姉妹および孫）が要介護状態となった場合、介護休暇を取得することができます。取得できる日数は要介護者の数に応じて変わり、1人の場合は1年度につき5日、2人以上の場合は1年度につき10日となります。

6. 学生生活に配慮した選考・採用活動に関するガイドラインについて

採用選考については、(社)日本経済団体連合会が発表している「大学卒業予定者・大学院修士課程修了予定者等の採用選考に関する企業の倫理憲章」に賛同し、学生の就職機会の公平・均等が保たれる選考活動が実施できるように努めています。

また、2012年度社員募集（2012年4月1日入社）より、大学院・大学、高専・短大を対象に3年以内の既卒者を応募要件に加えています。

これは、既卒者への応募機会の提供という社会的な要請にこたえとともに、地域発展の原動力となりうる意欲ある若者へ雇用機会を拡大し、将来にわたって電気事業の技術・技能を継承していく人材を安定的に確保することを目的としています。

7. 障がい者雇用

障がいのある方へ雇用の場を提供し、社会参加を支援するため障がい者雇用に取り組んでおり、2011年度末時点で法の定める障がい者雇用率の1.8%を満たしています。

8. 高齢者雇用

高齢者雇用への社会的要請の高まりと、定年退職者の豊富な知識や経験の活用を図るため、再雇用嘱託制度を設けています。

2011年度末時点 3名

9. ボランティア活動への支援

社員がボランティア活動に積極的に取り組める環境を作るため、ボランティア休暇制度を設け、社員が社内規定に該当する社会福祉活動や地域活動をする際、1

年度につき4日のボランティア休暇を取得することができます。

2011年度実績 のべ25名

10. シンボルスポーツへの支援

当社では2001年より硬式野球部をシンボルスポーツとして位置づけています。従業員がシンボルスポーツである硬式野球部を支援することで、従業員の一体感・連帯感の向上につながっています。

- ・2011年度実績(参加大会)
都市対抗野球大会
九州社会人野球選手権大会
石川蓬篤杯争奪硬式野球大会



▲都市対抗野球大会

11. ハラスメントに関するガイドラインの設定

職場におけるセクシャルハラスメントに関する取り扱い規程を定め、セクシャルハラスメントが発生した場合に適切に対処するため相談窓口を設けています。

12. 労使間のコミュニケーションに係る取り組み

円滑な労使関係を確立して生産性の向上、企業の充実、従業員の労働条件の維持改善、公共の福利促進をはかり、事業の健全な発展を期することを労使の共通認識として以下の取り組みを行っています。

- (1) 社員の組合加入**
労使間の労働協約に基づき、社員は労働組合に加入するよう定めています(ユニオンショップ制)。
- (2) 情報交換会の開催**
労働協約に基づく会議体以外に、情報交換会を開催し、労使の相互理解と信頼を深め、より良好な労使関係を確立するよう努めています。
- (3) 時間外労働について**

「時間外・休日労働に関する協定書」を労働組合と締結し、時間外・休日労働ができる時間について取り決めており、一定時間以上の時間外・休日労働をさせる場合には労働組合の承認を得る必要がある旨定めています。

海外派遣研修 企画部経営企画課 松田奈津子

イギリス パーミンガム大学(経営学修士)

企画部での経験から経営学について専門的に勉強してみたいと思ったことや、海外での経験を通して視野を広げたいとの思いから、2009年より2年間、イギリスの経営学修士課程で勉強してきました。講義を通して、今までの実務経験を学問として学ぶことができ、またグループワークを通して、自分がない物の見方や異文化の人々との接し方を学んだり、時には日本についての新しい発見があったりと、得るものが多く、充実した学生生活を送ることができました。世界中から集まったクラスメートとの出会いや初めての海外生活でさまざまな出来事など、私にとってこの留学は、今まで情報でしかなかった世界を体感することができた、とても貴重な経験となりました。



13. 安全衛生への取り組み

沖縄電力では、従業員の安全と心身の健康を確保するとともに、快適な職場環境形成を図るための「安全衛生管理目標」を定め、経営トップから従業員一人ひとりに至るまで、この管理目標の達成に向け全社をあげて安全衛生施策を展開しています。

2012年度安全衛生管理目標

1. 作業時における安全文化の浸透と安全管理の徹底について重点的に取り組み、労働災害の未然防止を図る。
2. メンタルヘルス不調者の発生予防および生活習慣病の予防に向けて、産業医、メンタルヘルス医および保健師などによる個別保健指導の強化を図る。
3. 快適な職場環境の形成に向けた職場環境の改善を図る。

【重点推進項目】

- (1)労働災害防止対策の点検および効果の確認
- (2)労働安全衛生マネジメントシステムの実効的運用
- (3)メンタルヘルス対策の強化
- (4)生活習慣病対策の強化
- (5)快適な職場環境形成の促進

第35回中央安全衛生大会の開催

沖電グループでは、全社一丸となって安全の確保と労働災害の未然防止を図り、より良い職場環境の形成に向けて邁進していくことを再確認するため、中央安全衛生大会を開催しています。今年も社長をはじめ、役員、各部室店長、関係会社の役員ほか、約180名が参加する中、安全衛生管理方針を確認し、管理目標達成のための『大会宣言』の採択を行いました。

今後も作業時における安全文化の浸透と安全管理の徹底について重点的に取り組み、これまで以上に労使が一体となって労働安全衛生活動を実効的に運用していきます。



▲中央安全衛生大会の様子

メンタルヘルス講習会の開催(うるま支店)

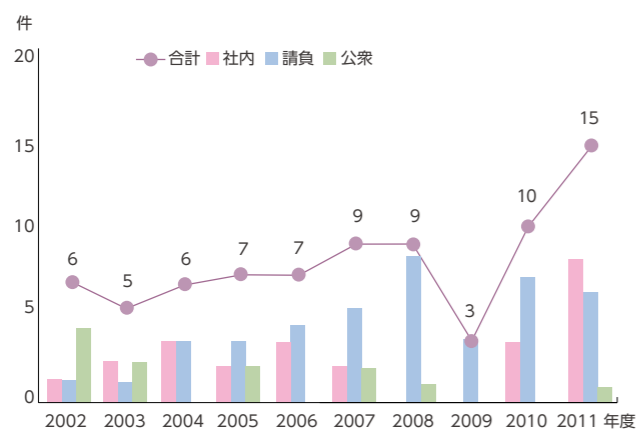
うるま支店職場安全衛生委員会の活動として、社団法人日本産業カウンセラー協会の講師をお招きし、「風とおしの良い職場づくりを共に目指そう!～ストレスの気づき～」をテーマに講演会を開催し、うるま支店職員(パート、嘱託などを含む)87名中84名が参加しました。

今後もうるま支店では「(あいさつ) + (一言)運動」を心がけ、職員一人ひとりが心身ともに元気な状態で気持ちよく仕事ができる雰囲気づくりを行っていきます。



▲メンタルヘルス講習会の様子

労働災害の推移(2002年度～2011年度)



(用語の説明)

- (1)社内:業務上(通勤途上除く)発生した当社社員(嘱託、出向者、臨時雇用者を含む)の人身災害をいう。
- (2)請負:当社の構内および当該工事区域内において当社請負業務(委託業務を含む)を遂行中発生した請負委託業者の人身災害で不慮災害を除く。
- (3)公衆:当社施設および機器・材料に関連して発生した公衆の人身災害と当社従業員が業務遂行中に公衆へ及ぼした人身災害をいう。

ステークホルダーとの対話

皆さまとの双方向コミュニケーションを通して、皆さまの視点から企業価値の向上を図るとともに、社会の持続的発展に寄与してまいります。

【オピニオンリーダーとの意見交換会】



▲沖縄県婦人連合会との意見交換会の様子

地域のオピニオンリーダーと当社役員が直接意見を交換する場を設けており、当社の事業内容や経営活動などについての理解を深めていただいています。皆さまからいただいた貴重なご意見やご要望については、事業運営の参考にさせていただきます。

【参加者からのご意見】

- ・沖縄で大規模な自然災害が起こった場合を想定しての沖縄電力の対策内容を伺うことができ、安心しました。
- ・グループをあげての東日本大震災被災地への復興支援の取り組みは大変心強く感じました。

【琉球大学の学生との意見交換会】

琉球大学の学生20名と「信頼される企業を目指して」と題し、CSRレポート2011を基に意見交換会を実施しました。参加した学生にとっては、企業における実際の活動や報告書を評価する貴重な機会となるとともに、当社にとっては多様な学生の評価を受けることにより、今後の活動や報告書作成に関する有意義な情報を得るまたとない機会となりました。



▲琉球大学ゼミ生20名との意見交換会の様子

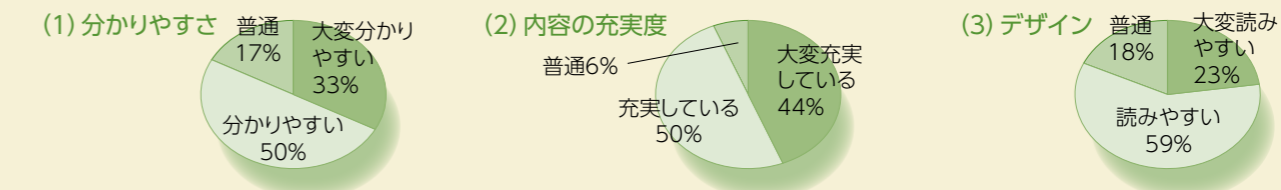
【参加者からのご意見】

- ・今回の意見交換会で、初めて沖縄電力が取り組んでいるさまざまな社会貢献活動を知ることができた。
- ・情報開示方法をさらに充実させたほうが良い。
- ・就職活動をする上で企業が地域社会にどのような役割を果たしているかを知るためにも、企業の活動は注目ポイントの一つとなる。今後は学生を対象としたCSR活動も充実させてほしい。
- ・県内のリーディングカンパニーとして、積極的に育児休業制度の活用を推進する役割を担ってほしい。

CSRレポート2011 アンケート集約結果

CSRレポートのアンケートにより、皆さまからのご意見・ご要望をお聞きしながら、今後のCSR活動やCSRレポートの改善・充実に努めていきます。

●CSRレポート2011アンケート集約結果 回答総数:18件



【主なご意見】

- 改善した方が良い点**
- ・地域の人に向けたCSRレポートを作るにあたって、主婦や高齢者にも分かりやすいものであったらいいなと思いました。
⇒**ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションツールとなるよう、分かりやすい報告書作りに努めます。**
 - ・お客さまの満足度は従業員の満足度が満たされているとより向上するといわれているが、お客さま側と従業員側からそういったアンケートをとり、両方の満足度の向上のため、何かしら改善に向けた活動があるか気になりました。
⇒**お客さまの満足度向上のため、改善事例を掲載しております。(P.29) 従業員の満足度向上に関するアンケートは不定期で実施しています。**

評価できる点

- ・色や写真の使い方がうまく、読んでいる人を飽きさせないと思いました。レポートを読むことでCSR活動について具体的に知ることができ、沖縄電力が社会に貢献している姿が良く分かりました。
⇒**ありがとうございます。今後も写真やグラフを多用し、分かりやすい報告書作りに努めます。**